

【 白川村 】
校務DX計画

1. F A X ・押印の原則廃止に向けた取り組み

F A X ・押印は校務の効率化・ペーパーレス化を図るうえで大きな阻害要因となるため原則廃止を目指す。F A Xの活用については、教職員一人一台の校務用パソコンと個人メールアドレスを付与したことでメールなどの活用が進み、大きく減少している。押印を求める文書発出についても精査し、その可否を判断の上、押印の原則廃止を目指す。

2. 名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に向けた取り組み

校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業などは、校務を不効率なものとしてしまい、望ましい校務の在り方の実現を阻害するため、CSVファイル等を用いて登録するシステムを使用し手入力作業を一掃する。

3. クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進に向けた取り組み

クラウド環境を基本としたネットワークを整備し、クラウドツールを積極的に活用することで校務の効率化・ペーパーレス化の推進を図る。

4. 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

現在の校務支援システムについては校務の効率化を図るため、県内自治体で共同運用されている統合型校務支援システムを導入している。次世代型校務支援システムの導入に向けては、県域で実施されている教職員業務改善協議会に参加し、令和8年度導入を予定している。新たなシステムではパブリッククラウドを活用したシステムを検討しており、教育現場での様々な校務の更なる効率化、教職員の働き方改革などを推進するため検討を進める。